

クナール河、大增水 マルワリード用水路流域の改修準備 PMS の臨時直接管理体制へ粛々

暑い日々が続きます。こちらは再び極端な少雨となり、記録的な暑気で、連日室内温度が40℃を超えます。

今冬のマルワリード用水路・堰の組織的な改修に備え、準備が進められています。工事そのものは堰・水門の部分改修と約10kmまでの再ライニングで、技術的に大きな問題はありません。最大の問題は流域各村、各集団の協力です。現在、伝統的な自治会が弱体化し、水利用組合も実体はなく、強制力を発動できる組織がなくなりました。各集団がバラバラに動き始め、統制がつかなくなりつつあります。

先に掲げたマルワリード用水路改修計画のうち、懸案の揚水水車撤去を去る7月8日に実施しました。強制撤去した水車は18~24kmの区間で13基、5年前から無断で置かれ、用水路の流れをよどませ、送水を困難にしていました。当方の再三の警告にもかかわらず、各集団が地域軍閥を背景にしており、行政も恐れ

て手が出せず、今回のPMS直接執行となりました。これを可能にしたのは、ものが言えない圧倒的な農民層の支持、PMSへの信頼と恐れ感情です。今回、総力を挙げて流域の秩序回復、維持態勢確立を動かぬものになりたいと思います。改修事業で送水能力を増せば、間もなく流域全体で水稻栽培も可能となります。

一言加えると、だから誰それが悪く、誰かを倒せば解決するという訳ではありません。自分中心の狭い見、党派心、他罰的な敵対感情が全ての人にあり、先が見えない無秩序の中で増殖しているだけです。

同時並行で進んでいる和平への胎動は、一時の混乱は避け得ないにせよ、人々の大きな希望となっています。どうぞ、動きにご注目下さい。

2019年7月12日 記

マルワリード用水路N区、違法水車の撤去作業。きれいな話だけでは収まらない水管理の厳しさがある。2019年7月8日



同用水路N区。流れを利用して橋げたやサイフォンの上下流端に設置されているものが多い。大抵のケースで水路床が大きく破壊されていた。2019年7月8日



用水路E区。水の流れを悪くする割に揚水効率が悪い。水路床を破壊するため、回転力が弱まるからだ。再ライニング後に再検討して、適切な手段で揚水を考える。
2019年7月8日



カチャラ堰取水口および用水路。ミラーン堰と共に最も安定した水位を保つ。最大の要因の一つは広い川幅で、何れも約 1000m ある。用水路沿いの柳枝工がこんもりと高くなっている。2019 年 7 月 7 日



カチャラ護岸 6.8 km地点の近景。立ち退いた家族も納得。真冬に 3m近く下にあった水面が、すれすれに迫っていたからだ。これでも 0.5mを更にかさ上げた状態。大きな降雨があればたちまち水があふれる。2019年7月11日



カマ第一堰、今夏最高水位の状態。この範囲はクナル河が最も狭まる地点で、川幅 200—250m、比較的安定しているマルワリード堰、カシコート堰が川幅 300m、極めて安定しているカチャラ堰、ミラーン堰が 1000m以上だ。2019 年 7 月 9 日

